

今後の農作業安全対策の 取り組みについて

農林水産省生産局技術普及課
生産資材対策室長 今野 聡

今後の農作業安全対策の取り組みについて

1. 平成27年の農作業死亡事故について
2. 今後の農作業安全対策の充実・強化について
3. 農作業安全対策の取組について
 - ① 農作業事故情報の収集強化、事故分析情報等の発信について
 - ② 専門家を交えた事故分析対策の構築、分析情報の発信の充実
 - ③ 企業における安全設計を一層促進する方策の検討について
 - ④ 農作業安全確認運動の推進について
 - ⑤ 農作業安全研修の実施について
 - ⑥ リスクアセスメントの実施について
 - ⑦ 労災保険特別加入制度の推進について
 - ⑧ 熱中症対策の推進について
 - ⑨ 警察、JA共済との連携について
4. 農作業安全対策推進のための啓発資材について

農作業死亡事故の発生状況

農業就業人口が減少し、高齢農業者の割合が増加する中で、農作業死亡事故件数は、近年約350件程度で横ばいで推移。

平成27年は338件と前年に比べ12件減少。しかしながら、農業就業人口に占める事故割合は増加傾向にあり、特に80歳以上の割合が5割近くを占める。

「食料・農業・農村基本計画」(抜粋) (平成27年3月)

効果的な農作業安全対策の推進

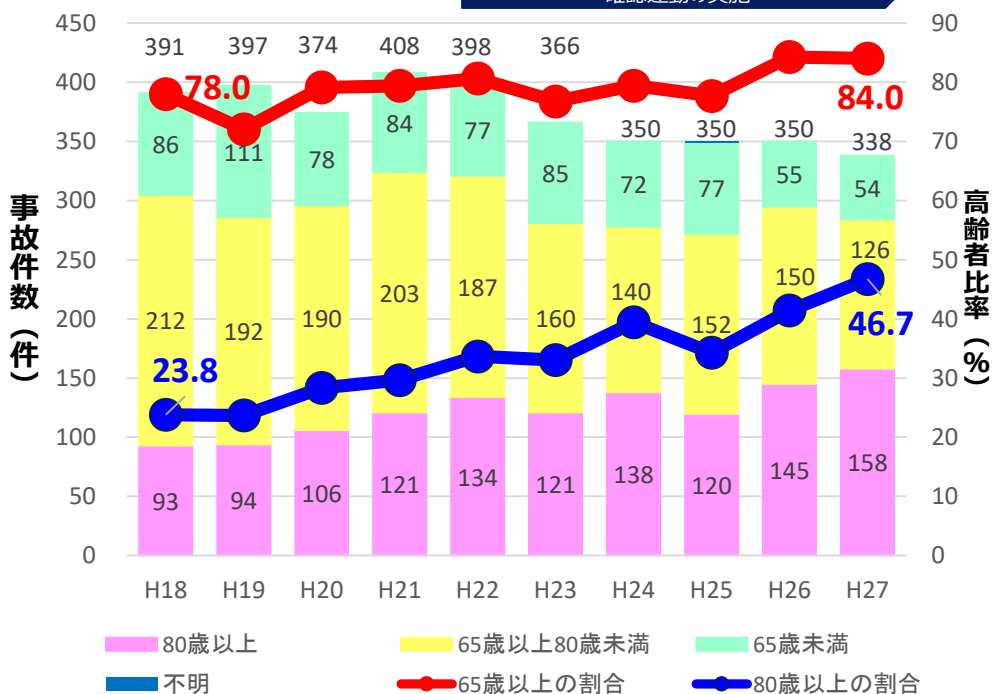
農作業事故防止のため、事故の調査、分析から危険要因の洗い出しを行うリスクアセスメント手法の導入、研修体制や意識啓発活動の手法の見直し、安全性の高い農業機械の開発と普及など、より実効性のある農作業安全対策を推進するとともに、労災保険制度の周知と加入促進等に取り組む。

(政策目標) 農作業事故による死亡者数を減少

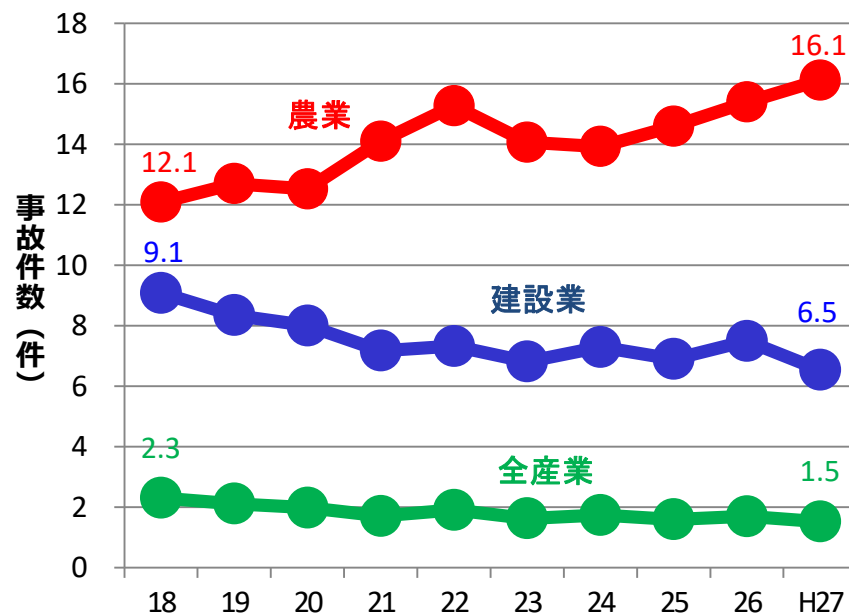
350人 (H25年) → 298人 (H31年)

農作業死亡事故の発生状況

確認運動の実施



10万人あたり死亡事故発生件数の推移



死亡者数 農作業死亡事故調査 (農水省)、死亡災害報告 (厚労省)
 就業人口 農林業センサス、農業構造動態調査 (農林水産省)、労働力調査 (厚労省)

農作業安全対策の充実強化

- 農作業死亡事故数は、近年350件程度で推移。平成27年(29年2月公表)では、338件と減少(対前年▲12件)したが、依然として高い水準にあり、対策の強化が必要。
- 農作業安全対策は、これまで農業関係者での取組が中心であったが、今後は他産業での取組も参考にしつつ、幅広い連携体制を構築するとともに、事故分析の充実を図り、具体的なアクションを各面にわたり講じていく。

これまでの取組

〔農作業事故情報の収集〕

- ・生産局長通知による農作業事故情報の収集
- ・革新工学センターでの事故分析の実施
- ＜課題＞ ・過去、関係機関への提供依頼はしているものの、情報が不足

〔安全啓発の取組〕

- ・関係機関、メーカー等と連携した農作業安全確認運動の実施
- ・農業者への安全意識向上を図るための啓発活動の実施
- ＜課題＞ ・啓発資料の配付、全国的な推進会議の開催に取り組んでいるが、全国的な波及を図る必要

〔農業機械の安全対策〕

- ・安全装置の開発による安全性能の向上
- ＜課題＞ ・新規安全装置(片ブレーキ防止装置等)を開発・導入しているが取組の加速が必要
- ・農業機械の安全性の向上を業界・メーカーに促していく必要

〔経営環境の改善〕

- ・厚労省と連携し、労災保険特別加入制度の加入促進
- ＜課題＞ ・雇用形態の増加に対応して、労働安全環境をしっかりと確保する必要

取組の改善

連携の強化、
取組の拡大

安全設計
の促進

取組の強化

今後の取組強化

〔農作業事故情報の収集〕

- ⇒ 報告しやすい調査に改善し、事故情報や協力機関等を積極的に発信
- ⇒ 労働安全衛生関係者等の専門家を交えた事故分析体制を構築し、分析結果を対策に反映

〔安全啓発の取組〕

- ⇒ ブロック段階での推進体制の構築。労働安全衛生関係者の参画を促し、他分野での工夫を活用促進
- ⇒ 各ブロックでの優良な取組を他地域に横展開
- ⇒ 警察庁とも連携して、啓発資料の共同作成するとともに、交通安全週間等での啓発活動を強化
- ⇒ シートベルトの着用定着に向けた検討
- ⇒ 農業分野でのリスクアセスメントの活用を促進し、リスクカルテを活かして対象者毎の啓発を展開

〔農業機械の安全対策〕

- ⇒ 新規安全装置の搭載状況等を見える化し、メーカーの搭載を促進
- ⇒ 事故分析結果を踏まえた機械・装置の早期改良・実用化など、業界に対して安全設計の向上に向けた取組を指導
- ⇒ 農業機械化促進法を廃止する一方、改正農研機構法の下で新たに安全性に力点を置いた検査の実施
- ⇒ 安全性向上を高める段階的な評価システムの構築の検討

〔経営環境の改善〕

- ⇒ 厚労省と連携して、農業法人等への労災保険の啓発強化
- ⇒ 労災保険特別加入の加入環境の改善(加入団体の拡大等)

① 効果的、体系的に事故情報を収集する仕組みづくりの構築

従来

- 農作業中の死亡事故が減少しない状況を鑑み、平成19年度に、農機具の使用により生じた人的被害を伴う事故に関する情報提供要請を各団体向けに発出。22年度より、都道府県にも要請を拡大したところ。しかし、
- ▲ 様式が利用しにくい（自由記載箇所が多く煩雑、事故分析に必要な項目が不十分）
- ▲ メーカー間、都道府県間の取組状況に濃淡があるといった課題があった。

新たな取組

農作業事故情報収集について、取り組みやすさを向上させるため、調査様式を改定し、改めて各機関に対して通知を発出。

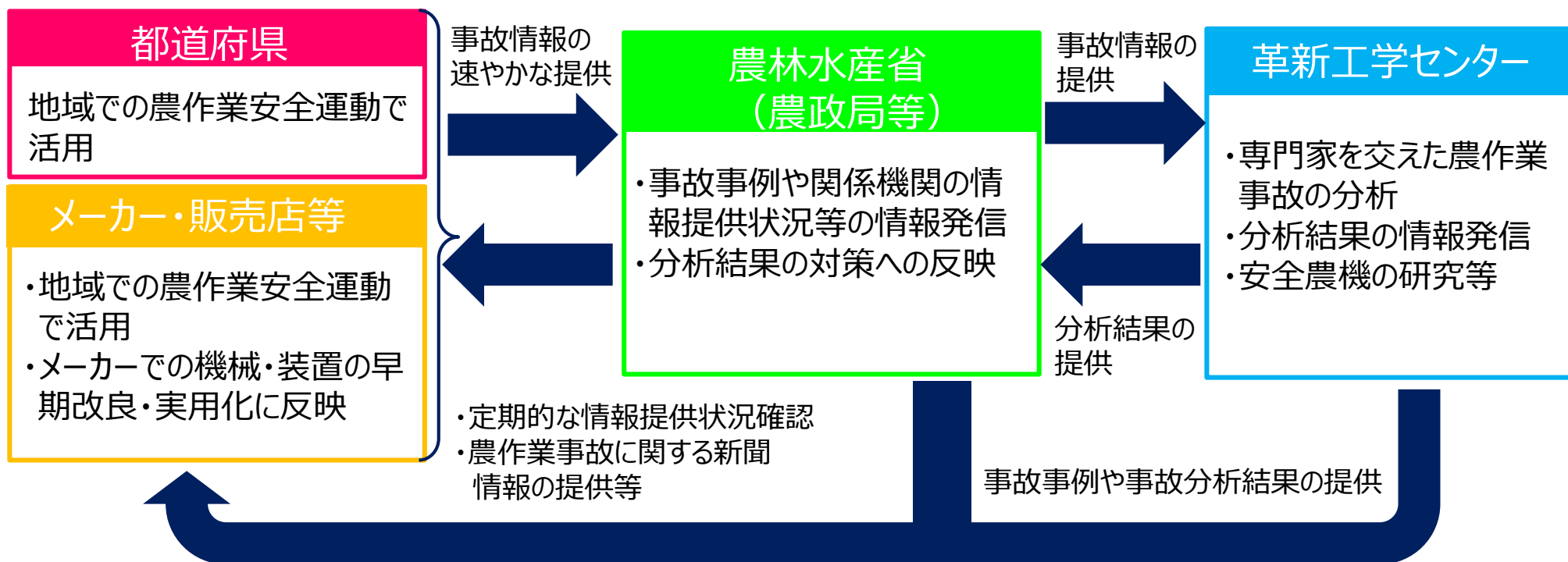
- 様式の改定（右図参照）
- 情報提供者が取り組みやすくなるよう自由記載から選択式に設問項目を変更
- 分析に必要となる項目を追加するとともに、事故現場の様子が把握できる見取り図シートを追加
- 農作業安全に対する意識の向上を呼び起こす観点から、改めて局長通知を各機関に発出。
- 事故事例や分析結果については、ホームページで公開するとともに、本通知への各機関の取組状況について明示し、取組の活発化につなげる。

農機具事故報告書					
機械の種類	機械の種類	メーカー名		型式名	
	作業場の種類(トラクター・耕耘機の場合)	メーカー名		型式名	
負傷者の情報	年齢	才	健康状態・服装等		
	経験期間	() 年 () 月	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> 不明	
	負傷等の程度	<input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> 重傷(全治30日以上)	<input type="checkbox"/> 軽傷(全治30日未満)	<input type="checkbox"/> 不明	
	傷病名		傷病部位		
発生日時	平成 年 月 日 () 午前 () 午後	時() 分()	当日の天気		
発生場所	県・市町村名()				
具体的な発生場所(転落した場合、転落直前の場所)	<input type="checkbox"/> 水田 <input type="checkbox"/> 畑 <input type="checkbox"/> 草地 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> 圃場畦畔 <input type="checkbox"/> 圃場進入路 <input type="checkbox"/> ビニールハウス	<input type="checkbox"/> 施設内 <input type="checkbox"/> 道路(道幅 m程度)	<input type="checkbox"/> その他()		
発生場所の状況	<input type="checkbox"/> ●事故現場の傾斜 (<input type="checkbox"/> 急 ・ <input type="checkbox"/> 緩 ・ <input type="checkbox"/> 無) / (<input type="checkbox"/> 上り ・ <input type="checkbox"/> 下り) <input type="checkbox"/> ●周囲の段差や溝 (<input type="checkbox"/> 有(高さ m程度) ・ <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> ●舗装の有無 (<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無(<input type="checkbox"/> 砂利 ・ <input type="checkbox"/> 草 ・ <input type="checkbox"/> 土)) <input type="checkbox"/> ●路面の状態 (<input type="checkbox"/> ぬかるんでいた ・ <input type="checkbox"/> 乾燥していた ・ <input type="checkbox"/> ぬれて滑りやすかった) <input type="checkbox"/> ●その他 ()				
作目		行っていた作業			
事故の経緯					
事故の原因					
機械発生状況の情報	トラクター	<input type="checkbox"/> ●安全キャブ・フレームの有無(<input type="checkbox"/> キャブ有 ・ <input type="checkbox"/> フレーム有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ・ <input type="checkbox"/> たんでいた) <input type="checkbox"/> ●左右ブレーキ連結の有無(<input type="checkbox"/> 連結されていた ・ <input type="checkbox"/> 連結されていなかった) <input type="checkbox"/> ●シートベルト着用の有無(<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無) ●作業機の状態(<input type="checkbox"/> 駆動 ・ <input type="checkbox"/> 停止) <input type="checkbox"/> ●事故時の速度段(<input type="checkbox"/> 前進 ・ <input type="checkbox"/> 後進)(いくらだったか:)			
	耕耘機	<input type="checkbox"/> ●事故時の変速設定(<input type="checkbox"/> 前進 ・ <input type="checkbox"/> 後進) ●速度段(いくらだったか:) <input type="checkbox"/> ●スロットル設定(<input type="checkbox"/> 全開 ・ <input type="checkbox"/> 中間 ・ <input type="checkbox"/> アイドル) ●作業機の状態(<input type="checkbox"/> 駆動 ・ <input type="checkbox"/> 停止) <input type="checkbox"/> ●作業機の状態(<input type="checkbox"/> 駆動 ・ <input type="checkbox"/> 停止) <input type="checkbox"/> ●安全装置の有無(<input type="checkbox"/> エンジン緊急停止ボタン ・ <input type="checkbox"/> レッドマンクラッチ ・ <input type="checkbox"/> 挟圧防止装置 <input type="checkbox"/> 後進時作業部停止機構 ・ <input type="checkbox"/> その他 ・ <input type="checkbox"/> 無)			
機械の状況	刈払機	<input type="checkbox"/> ●刈刃の種類(<input type="checkbox"/> チップソー ・ <input type="checkbox"/> 丸鋸刃 ・ <input type="checkbox"/> 笹刈刃 ・ <input type="checkbox"/> ナイロンカッター ・ <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> ●飛散物防止カバーの有無(<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ・ <input type="checkbox"/> 有だがずらしたり外したりしていた) <input type="checkbox"/> ●個人保護具の有無(<input type="checkbox"/> 保護メガネ有 ・ <input type="checkbox"/> 保護エプロン有 ・ <input type="checkbox"/> すね当て有 <input type="checkbox"/> 安全靴有 ・ <input type="checkbox"/> 手袋有 ・ <input type="checkbox"/> 腕カバー有 ・ <input type="checkbox"/> その他 ・ <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> ●機体の形状(<input type="checkbox"/> 肩掛式 ・ <input type="checkbox"/> 背負式) ●スロットルレバー(<input type="checkbox"/> 固定 ・ <input type="checkbox"/> トリガ)			
	運搬車	<input type="checkbox"/> ●機体形状(<input type="checkbox"/> 三輪 ・ <input type="checkbox"/> 四輪 ・ <input type="checkbox"/> クローラ) / (<input type="checkbox"/> 乗用 ・ <input type="checkbox"/> 歩行用 ・ <input type="checkbox"/> 兼用) <input type="checkbox"/> ●事故時の変速設定(<input type="checkbox"/> 前進 ・ <input type="checkbox"/> 後進) ●速度段(いくらだったか:)			
自脱型コンバイン	自脱型コンバイン	<input type="checkbox"/> ●機体形状(<input type="checkbox"/> 3条刈 ・ <input type="checkbox"/> 4条刈 ・ <input type="checkbox"/> 5条刈以上) / (<input type="checkbox"/> グレンタンク式 ・ <input type="checkbox"/> ホップ袋詰式) <input type="checkbox"/> ●事故時の変速設定(<input type="checkbox"/> 前進 ・ <input type="checkbox"/> 後進) ●副変速設定(<input type="checkbox"/> 移動 ・ <input type="checkbox"/> 低速(倒伏)) <input type="checkbox"/> ●グレンタンク内の糊の有無(<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> ●キャビンの有無(<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無) ●緊急停止ボタンの有無(<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無)			
	スピードブレーヤー	<input type="checkbox"/> ●キャビンの有無(<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無) ●タンク内の薬液(<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> ●事故時の変速設定(<input type="checkbox"/> 前進 ・ <input type="checkbox"/> 後進) ●速度段(いくらだったか:)			

改定様式

農作業事故情報の収集強化、事故分析情報等の発信

- メーカー、販売店や都道府県等は、事故情報を入手した際は速やかに報告（農水省からも定期的に情報提供の状況について関係機関へ確認）。農水省からは農作業事故に関する新聞情報等を提供し、関係機関の事故情報の収集・提供を支援。
- 提供された事故情報は、農水省で事故事例や関係機関の情報提供状況等を整理し、春、秋の農作業安全確認運動推進会議での報告やHP掲載を通じて定期的に情報発信。
- 併せて、革新工学センターに事故情報を提供し、センターでは、専門家を交えた事故分析を行い、その結果を農作業安全確認運動推進会議での報告やHPでの掲載等を通じて情報発信するとともに、農作業安全対策に反映。



② 専門家を交えた事故分析体制の構築、分析情報の発信の充実

新たな取組

- 労働安全分野の専門家、担い手農業者、農業機械の製造・販売などの関係機関等からなる「事故原因分析検討会」を農研機構農業技術革新工学センターに新たに設け、主要機種を中心に、機械・装置や利用上の原因等についての事故分析を実施。
- 具体的には、
 - 独立行政法人 労働安全衛生総合研究所
 - 公益財団法人 交通事故総合分析センター
 - 一般社団法人 日本労働安全衛生コンサルタント会
 - 中央労働災害防止協会

以上の4法人から専門家を招聘し、会合を開催。4人の専門家には、会合への出席のほか農作業事故調査・分析のアドバイザーとして適宜相談に乗っていただくとともに、他分野における事故調査・分析、現場への普及指導等に関する情報を必要に応じ提供いただく。

分析アドバイザー会議 検討概要



全体会議 2回（平成28年6月9日・平成29年2月28日）

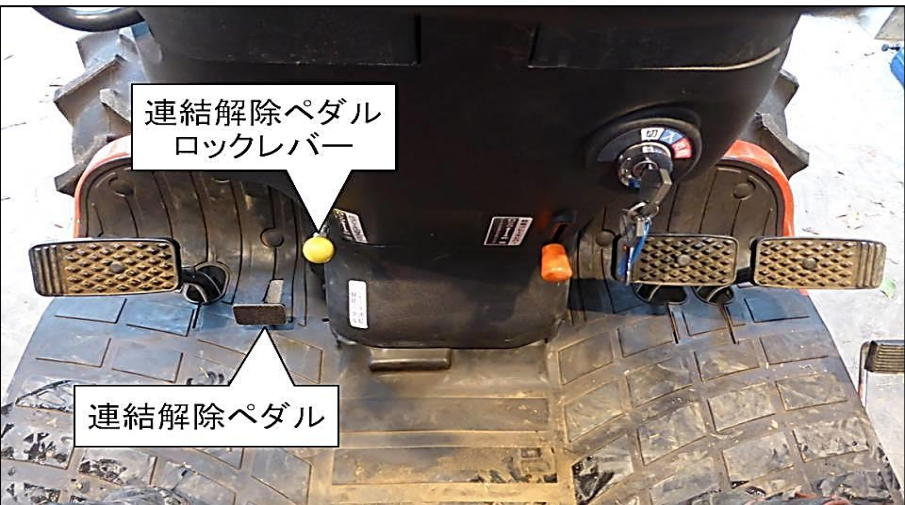
- 詳細調査・分析への指導、助言
 - ・交通事故対策等と同様に行政レベルの連携、オールジャパンの取組みの必要
 - ・事故要因（機械・作業・環境・人）の分析で抽出された対策・啓発のフィードバックと実効ある協力体制の構築
 - ・調査対象の拡大、データの蓄積とDB化の継続、FTA、ETA分析等の精度向上
- ⇒ 今後、検討会での分析結果等をメーカーや生産現場へ発信し、具体的な改善につなげていく（農水省、革新工学センター）

③企業における安全設計を一層促進する方策の検討

従来

- 平成23～25年度にかけて安全緊プロ装置（片ブレーキ防止装置、手こぎ部緊急停止装置）を開発

- 乗用型トラクターの片ブレーキ防止装置の開発（開発期間：平成23年度～平成25年度）



開発背景

- ・左右のブレーキペダルの連結、解除は手動で行う必要があり手間がかかることから、連結・解除操作を省略しがちである。
- ・乗用型トラクター事故のうち片ブレーキが原因と疑われる転落・転倒事故は13%を占める

開発目的

- ・新装置の実用化により当該原因による事故を0件とする。

連結解除ペダルを踏んでいる間のみ片ブレーキを使用可能。
連結解除ペダルロックレバーによる切り替えで、解除ペダルの誤操作を防止。

- 自脱コンバインの手こぎ部の緊急即時停止装置の開発（開発期間：平成23年度～平成25年度）



緊急停止ボタンを押さないといけない

両手で作業するときのみ手こぎ可能。

開発背景

- ・停止ボタン操作後すぐにフィードチェーンが止まらないことがある
- ・小柄な作業者によっては停止ボタンに手が届かない型式がある

開発目的

- ・巻き込まれによる死亡事故と負傷事故のうち、入院が必要な負傷を招く事故の撲滅を目標とする。

安全緊プロ装置の搭載状況

新たな取組

- 開発した安全緊プロ装置の搭載状況について、導入機種や状況がわかるようHP等で情報公開。
- 農業技術革新工学研究センターの農作業安全研究部門に農業機械のリスクアセスメントに関する相談窓口を設置。

乗用型トラクターの片ブレーキ防止装置搭載状況について
(平成28年12月末現在)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	累積型式数
クボタ	SL54, SL60, MR77, MR87, MR97	NB17, NB19, NB21, NB23, SL38, SL41, SL45, SL48, MR60, MR65, MR70	FT220, FT240, FT300, SL28, SL35, M7131, M7151, M7171	24
ヤンマー		YT463, YT470, YT490, YT5101, YT5113	YT222, YT225, YT228, YT232, YT330, YT333, YT338, YT345, YT352, YT357	15
トセキ		NTA253, NTA283, NTA313, NTA343, NTA403, NTA453, NTA503, NTA543, NTA603, NT253, NT283, NT313, NT343, NT433, NT483, NT543, NT603, Z15	RTS18, RTS20, RTS22, RTS23, RTS25, NTA303	24
三菱マヒンドラ	GV77, GV87, GV97	GM450, GM500, GM550, GV60, GV65, GV70	GM300, GM330, GM360, GA450, GA500, GA550, GA300, GA330, GA360	18

自脱コンバイン手こぎ部緊急即時停止装置の搭載状況について
(平成28年12月末現在)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	累積型式数
クボタ	ER460, ER470	WR460N	ER330N, ER338N, ER438N, ER448N	7
トセキ		HFR450, HFR463	HFC331, HFC435, HFR338, HFR440	6
三菱マヒンドラ		V475, V575, V6120	V450	4

※大手農業機械メーカー4社から平成26年度以降に発売されたトラクター及びコンバインには、全て安全緊プロ装置が搭載されている

④ 農作業安全確認運動の推進

2017年農作業安全確認運動

春の農作業安全確認運動推進会議
平成29年2月6日開催

〔テーマ〕（通年）

『一人一人の安全意識と周囲からの
「声かけ」から始まる農作業の事故防止』

〔実施期間〕

春：平成29年3月1日～5月31日（3ヶ月）

秋：平成29年9月1日～10月31日（2ヶ月）

2017年農作業安全ステッカー



農作業安全確認運動の推進状況

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
構成団体	18団体	19団体	19団体	22団体	22団体	22団体
参加団体	677団体	625団体	653団体	602団体	698団体	登録中
重点推進テーマ	安全確認徹底で家族と農業を守ろう！	一人一人が主役 広げよう！安全確認	あなたの地域から広がる、農作業安全	多様な視点を取り入れた具体的な農作業安全対策の推進	一人一人の安全意識の向上で事故防止	一人一人の安全意識と周囲からの「声かけ」から始まる農作業の事故防止
安全ステッカー						
安全ポスター						

農作業安全推進ブロック会議の開催

新たな取組

- 各地方ブロック単位で農作業安全推進ブロック会議を設け、地域における関係者間の連携や情報共有等を促進

参集範囲

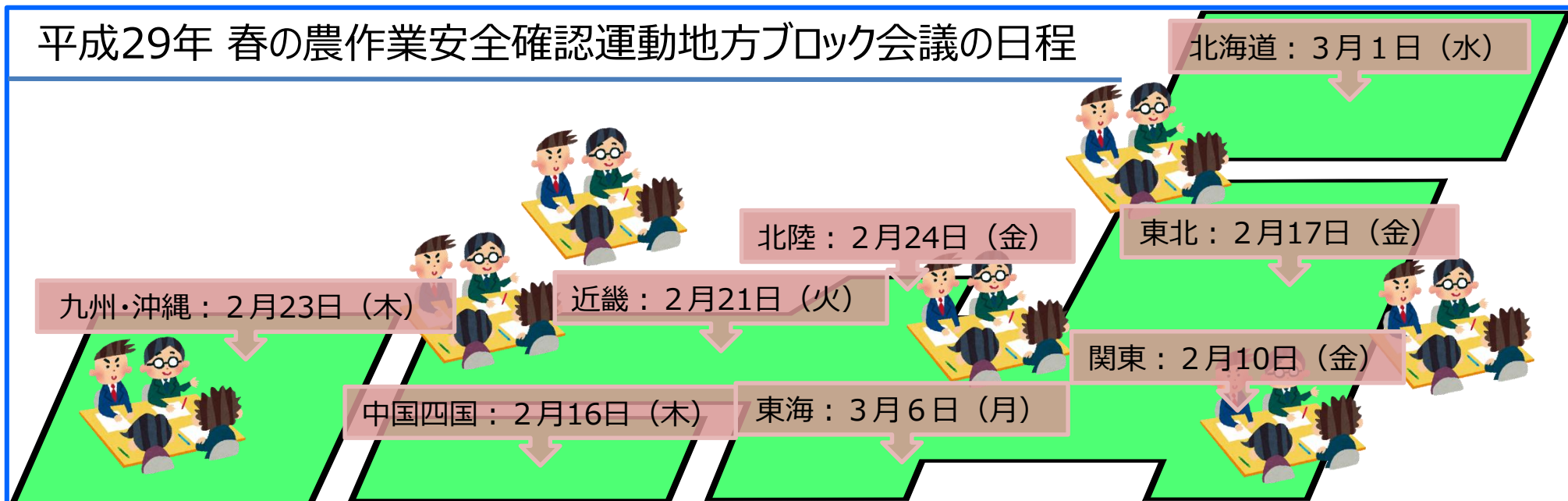
- 都道府県農林水産部
- 都道府県JA中央会
- 道府県社会保険労務士会
- 農業機械メーカー
- 都道府県法人協会 等



主な議題

- 農作業事故対策の状況について
- 都道府県の農作業安全の取組について
- 労災保険の加入促進の取組について 等

平成29年 春の農作業安全確認運動地方ブロック会議の日程



地方ブロック会議での特徴的な取組事例

(平成28年秋の地方ブロック会議より)

	特徴的な取組内容
北海道	・警察本部から農耕用自動車の死亡事故の発生事例、事故防止対策の啓発チラシを作成・配布。
青森	・農機のシートベルト着用等の重点推進活動を実施。
福島	・スマートフォンを活用した転倒通報アプリの開発、利用の促進。 ・農作業安全アドバイザーの育成（H27:167人）。 ・農機商組での農作業安全シールの作成。 ・県中による労災特別加入の推進活動により、JA労働保険組合の増加、加入農業者の増加。
群馬	・各農業事務所に農作業安全対策担当者を配置。
千葉	・多面的機能支払交付金を活用して安全研修会を開催。
愛知	・県推進会議において、農作業事故調査等を実施。
三重	・老人クラブを対象に、農作業安全DVDの上映や事故事例・安全対策を紹介し、安全意識を啓発。
鳥取	・農作業安全推進員による、農作業事故調査の実施。
愛媛	・高齢者と女性を対象とした安全研修会の実施（H27:352名）。
福岡	・農業法人向けの労働安全研修会を重点的に実施。
大分	・一部の市町村において、農業労災保険加入者募集チラシを全戸に案内。
沖縄	・農業関係機関自らが危険箇所での安全啓発標識を設置、農作業安全啓発のヘルメットを作成・配布

⑤ 農作業安全研修の実施

座学のみならず、乗用型トラクターの傾斜地における横転疑似体験や歩行型トラクターの挟まれ体験等の危険性も体験できる研修を実施。

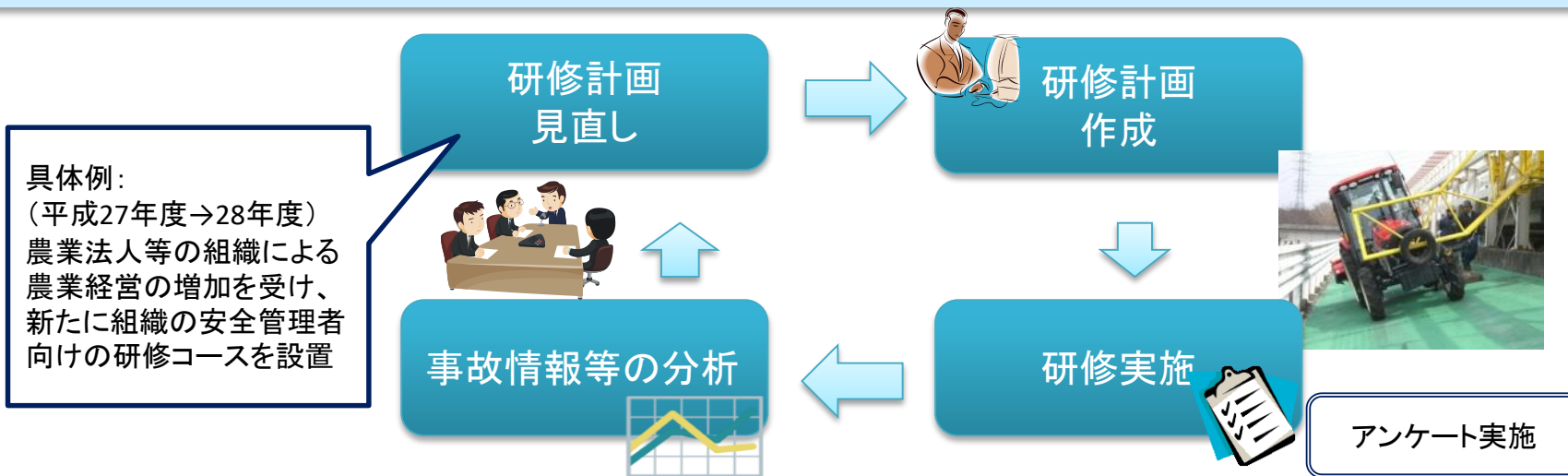


農作業安全研修の開催実績数及び受講者数

25年度		26年度		27年度	
開催実績(回)	受講者数(人)	開催実績(回)	受講者数(人)	開催実績(回)	受講者数(人)
51	670 (114)	49	637 (98)	45	600 (129)

※かっこ内は農業者の受講者数

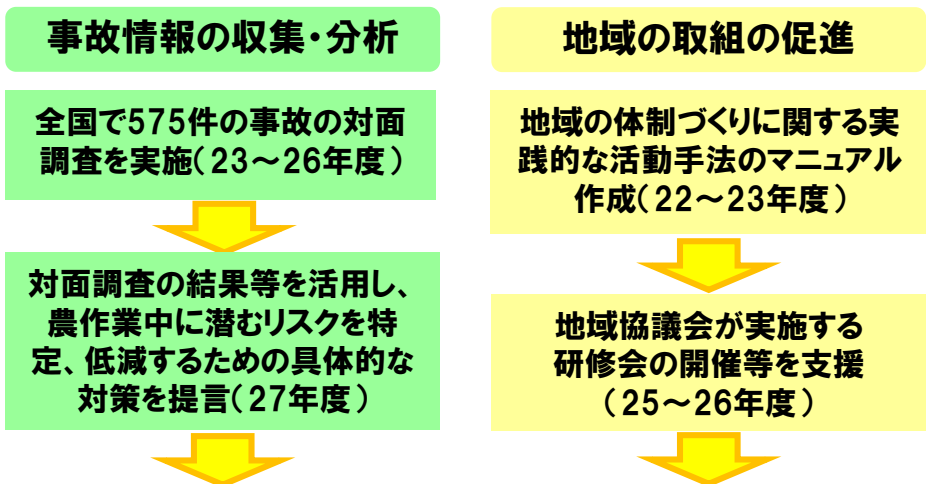
研修計画の作成においては、事故情報の分析を実施し、効果の高い内容に見直し。また、研修実施後、研修生からのアンケート結果を研修計画の見直しに反映。



⑥ リスクアセスメントの実施 平成29年度 農作業安全総合対策推進事業（拡充）

農作業事故防止に係るアドバイザーによる各農業者が有するリスクやその対策をまとめたもの（リスクカルテ）を使用した農業者及びその家族自らによる事故対策を支援し、農作業事故の防止を図る。

これまでの農作業安全対策に係る事業の経緯



- 効果的な啓発活動の手法の開発・働きかけ(28年度)**
- 労働安全衛生などの専門家が効果的に農業者の安全意識を高める啓発手法を検討
 - 上記の検討結果及びこれまで実施された農作業事故に関する調査・分析結果を活用し、様々な農作業現場の環境等に応じて活用可能な啓発資材等を制作
 - 制作した啓発資材等を使用し、専門家による講習会やほ場での安全指導等の啓発活動を全国1万人に対して実施
 - アンケート等により啓発効果を測定し、リスク分析結果に基づく農作業安全の効果的な取組や安全意識向上を図るための手法等を取りまとめ

平成29年度予算要求事業の概要

① リスクカルテによる全国各地の啓発（「PUSH」型の啓発活動の実施）

- 農作業安全アドバイザーの情報共有及びネットワーク構築
農作業安全アドバイザー（アドバイザー）として、農業機械士等の農業関係者や労働安全衛生関係者を対象とし、農作業事故防止に係る知識について情報共有を行うとともにネットワークを構築
- リスクカルテ及び啓発資材の作成
手法に応じたリスクカルテ（地域の実情や個々の身体機能、習熟段階等に応じたもの等）や啓発資材（農業者のみならず、子どもを対象としたもの等）を作成
- 「私の農作業安全宣言」取組の実施
 - ・ 農業機械展示会等のイベントにおいて、来場した農業者の身体機能（有効視野や周辺視野反応速度等）の測定を実施し、結果に応じてリスクカルテを配布
 - ・ カルテの診断リストの中から、農業者自らが対策を選び、その家族等とともに「私の農作業安全宣言」を実施
 - ・ 宣言者は対策を実施し、アドバイザーは宣言者に技術的支援を実施



② 先進的な取組のプレイアッ

- ・ 行われた事故対策についてとりまとめ、掲示やホームページ等で幅広く情報発信
- ・ 優良事例及び各地のアドバイザーの連絡先について事例集としてとりまとめる



⑦ 労災保険特別加入制度の推進

〔特別加入〕

農業者個人でも、JA等が特別加入団体となり集団で手続きを行えば、雇用労働者と同じように労災保険に特別加入できる制度。

〔加入状況〕

- ・特別加入者(農業): 12. 8万人(平成27年)
- ・農業就業人口の約6. 1%で横ばい

〔加入促進の方針〕

- ①「+安全」(農業者が参加する多種多様な会議、集会、講習会、イベント等で安全の話題をプラスしてもらうこと)の一環として
- ②研修、講習を通じて
- ③パンフレットの配布を通じて



引き続き、関係者等と協力し、労災保険への加入を促進

熱中症対策

熱中症予防声かけプロジェクトと連携してポスターおよびチラシを作成し、7月の月間にあわせて行政機関やJA、民間企業などに配布している。チラシには熱中症予防チェックシートを掲載し、農業者への啓発を促している。その他、イベント等でも連携を実施している。

農林水産省 × 気象庁 × 環境省
暑くなってきたら、日々の体調管理に気を付けよう！

農作業時の熱中症に注意!!

熱中症は、適切な対策を取れば防ぐことができます。お互いに声をかけあって、熱中症を予防しましょう。

- 天気予報と体調をチェック**
 - 急に暑くなる日は要注意です。
 - 体調不良時は、無理をしないように。
- 涼しい服装・安全な作業環境**
 - 帽子で日差しを遮り、汗を逃がしやすい服装で。
 - 作業はできる限り二人以上で。暑いハウスの中は風通し良く。
- こまめに水分補給 こまめな休憩**
 - 喉が渇く前にこまめに水分をとりましょう。
 - こまめに涼しい場所で休息しましょう。

高齢者は要注意! 高齢者は若者に比べると、暑さや喉の渇きを感じにくくなっています。周囲の人も積極的に声をかけましょう。

熱中症になってしまったら...

- 涼しい場所に避難させる
- 衣服を脱がせ、身体を冷やす
- 水分を補給する
- 自力で水を飲めない、意識がない場合は、直ちに救急隊を要請しましょう。

熱中症予防強化月間

農作業の前に暑さ指数をチェックしよう!

農林水産省 農林水産省は農作業中の事故防止に取り組んでいます！
気象予報士からのアドバイスも掲載中！
サイトはこちらから
ひと涼み

熱中症予防ポスター

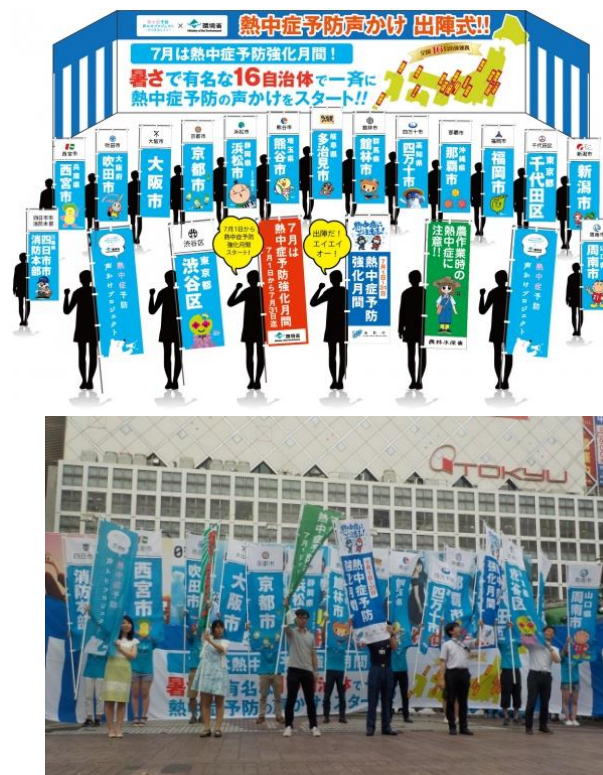
農作業時の熱中症予防チェックシート

熱中症が原因でめまいなどを起こし、トラクター転倒などの重大事故につながることもあります！下記的项目をチェックして、熱中症に注意しましょう！

- 天気や気温を確認しましたか？**
出かける前にならず天気予報を確認しましょう。急に暑くなる日は熱中症の危険が高くなります。梅雨明け直後は要注意です。風が弱い日や、湿度が高い日は熱中症にかかりやすくなります。
- 体調は万全ですか？**
体調不良（二日酔い・寝不足・風邪気味）の時は熱中症の危険度が増します。
- 朝ごはんは食べましたか？**
朝食で取るべき栄養分と水分をきちんと取りましょう。
- 涼しい服装を選んでますか？**
服は、日差しを遮り、汗を逃がしやすいものを着ましょう。吸汗・通気性に優れた素材の服がオススメです。
- 日差しを遮る帽子はありますか？**
つばの広い帽子をかぶり、直射日光を避けましょう。
- 飲み物は持ちましたか？**
水分補給をこまめにとりましょう。特に高齢者は水分不足や渇きを感じにくくなっているため、喉が渇く前に積極的に給水しましょう。大量に汗をかく場合は、塩分も補いましょう。
- 二人以上での作業ですか？**
一人で作業中に熱中症になると、助けてくれる人がおらず重症化のおそれがあります。できる限り二人以上で作業をし、体調不良時は強要せず休憩を促しましょう。
- 作業場所は熱がこもりませんか？**
ハウスや畜舎など気温が上昇しやすい施設内の作業は、風通しをよくしましょう。室内の換気をして、熱がこもらないようにしましょう。
- 作業計画に無理はありませんか？**
涼しい時間帯に作業をしましょう。もし暑い時間帯に作業するときは、休憩をこまめに、作業時間を短くなどの工夫を。
- 緊急連絡先を知っていますか？**
いざというときのため、緊急連絡先を持ち歩きましょう。具合が悪くなった場合、医療機関にかけましょう。

農林水産省 生産局 技術普及課 03-3502-8111 (内線：4774)

熱中症予防チェックシート



熱中症予防強化月間関連イベントへの参加
(画像：熱中症予防声かけプロジェクト資料から引用)

⑨ 警察庁、J A 共済との連携

警察庁、J A 共済、農林水産省が連携して、安全啓発チラシを共同して作成。

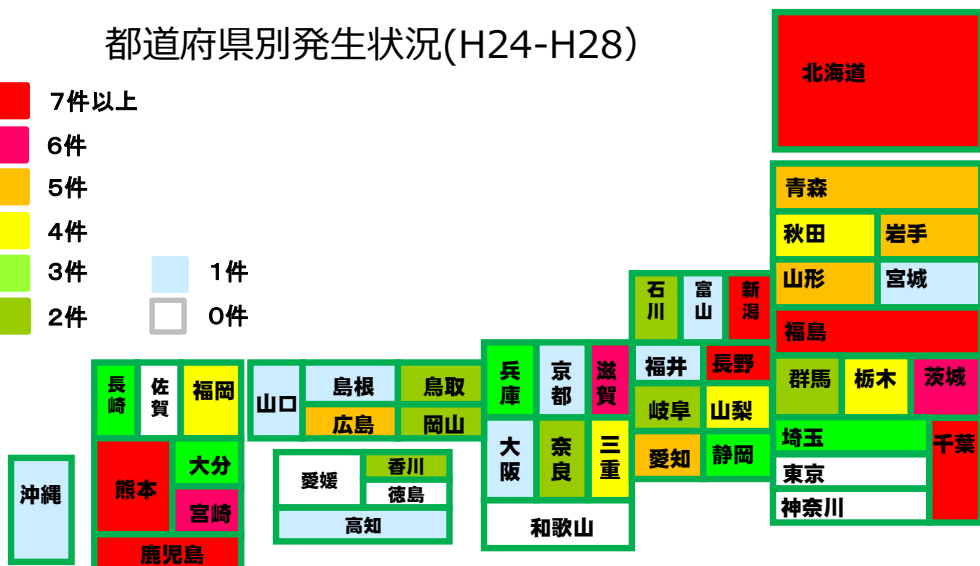
本チラシも全国的に活用しながら、都道府県、関係団体等においては、農業者に対して乗用型トラクター乗車時のシートベルト、ヘルメットの着用の声かけを実施。

農耕作業用自動車（農耕作業用小型・大型特殊自動車）の
関係する交通死亡事故発生状況

過去5年間（H24-H28）の交通死亡事故発生件数

	H24	H25	H26	H27	H28	合計	年平均
交通死亡事故発生件数	31	35	30	30	37	163	33

都道府県別発生状況(H24-H28)



※農耕作業用自動車（農耕作業用の小型・大型特殊自動車）の関係する交通死亡事故発生状況（警察庁交通局交通企画課）

トラクターを運転する時は、シートベルト、ヘルメットを着用しましょう！



啓発チラシを使った「声かけ」

※安全キャビンもしくは安全フレームが装備されていない場合は、大幅に死傷する確率が上昇する。

農作業安全対策推進のための啓発資材

農林水産省

English | トップページ | サイトマップ | 文字サイズ | 標準 | 大きく

逆引き事典から探す | 組織別から探す | キーワードから探す | Google*カスタム検索 | 検索

会見・報道・広報 | 政策情報 | 統計情報 | 申請・お問い合わせ | 農林水産省について

ホーム > 組織・政策 > 生産 > 農業生産資材対策情報 > 農業機械関係情報 > 農作業安全対策

農作業安全対策

<p>全国農作業安全確認運動</p>	<p>農作業安全研修資料等 New! (ご自由にご使用いただけます) 29.1.31 「死亡事故が多い、公道での農機事故」追加</p>	<p>農作業死亡事故調査</p>	<p>農作業事故情報 New! 29.1.31 「農機作業用自動車（農機作業用の小型・大型特殊自動車）の交通死亡事故発生状況と主な事例」 「農機事故等の情報収集の強化に向けた業務について」追加</p>
<p>予算・補助事業・委託事業</p>	<p>農作業安全関係通知 New! 29.1.31 「農機作業用自動車の交通事故防止の措置について」追加</p>	<p>農作業事故防止活動マニュアル</p>	<p>こうして起こった農作業事故 ～農作業事故の対面調査から～（事故事例集）</p>
<p>農作業安全の手順1.2.3 ～農作業事故を未然に防ぐ～ New!</p>	<p>農業者の労災特別加入について</p>	<p>型式検査・安全鑑定</p>	<p>農作業安全に関する研修のご案内</p>
<p>熱中症対策（28年度の熱中症対策のページはこちらから）</p>	<p>外部リンク</p>		

必見！ 農業者の皆さん 労災保険の特別加入をご存じですか!!



ここに注目!
労災保険は、本業、副業等の農機、耕種、播種、育苗などに関する労働者に対する労災ですが、加入資格が厳格で、一般の労働者とは異なる要件を満たす必要があります。労災特別加入により、労災に加入することができます。

療養・休業給付から遺族給付まで 手厚い補償があります!

MAFF 農林水産省 | 厚生労働省

SERIES 安全対策・これだけは



トラクター事故

トラクター事故の3つの特徴

- 1 走行中の転倒・転落**
● 直内カーブ、急内カーブ、急進走行
● 狭い道幅、草むらで前進、境界不分明
● プレーキの連続ロック、スピードを抑える
- 2 作業機の取替・修理時の事故**
● 間違えた手順での事故
- 3 乗降中の転落**
● 大気圧による乗降が難しくなっている
→ とくに乗降時は後ろ向きに

死亡事故が多い、公道での農機事故



安全確認と予防対策で 農機の死亡事故を防ごう!

トラクターや運搬車などの操作ミスが転落・横転を引き起こす



公道での事故例から農機操作の危険なポイントを確認しよう

農機の死亡事故は、事故発生時の瞬間をきき込む迅速な事故対応が不可欠です。

- 公道に出入り、農機操作中に不意な動きで発生する事故の主な原因**
道路外への逸脱・坂道駐車で転落・横転
作業中による農機の重心の変化で横転
- 公道に出入り、一般国道と農道・林道に発生する事故の主な原因**
走行中の転落・道交事故

農機の死亡事故防止の対策・準備は大丈夫?!

- 1 駆動系マウスや反制装置を取り付ける**
- 2 シートベルトの着用と安全キャブフレームの整備**
- 3 プレーキ連踏の確認**

農林水産省 | 警察庁 | JA共済

平成26年度農水省補助事業
こうして起こった 農作業事故 IV
～農作業事故の対面調査 4年間の総括～



一般社団法人・日本農村医学会

防ごう! 農作業事故
地域活動マニュアル



平成24年3月
農林水産省

農作業イミダス

農機事故防止の意識を高めよう

1-1 作業事故

農機イミダス

農機事故防止の意識を高めよう